

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市縄文の森広場	
2 指定管理者	公益財団法人仙台市市民文化事業団	
3 指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和4年度 16,618人(前年度比 132.1%) 令和3年度 12,582人(前年度比 148.2%) 令和2年度 8,491人	
	《事業》 山田上ノ台遺跡の常設展示及び野外展示、縄文時代に関わる展示事業(企画展示)、講座やイベント、体験学習を通じた教育普及事業及び調査・研究事業	
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 69,421千円(67,618千円) ・ その他市が負担した費用 4,805千円(493千円)	
	《収入》 ・ 使用料収入 448千円(341千円) ・ その他収入 718千円(475千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 ・ 通年で実施している利用者アンケートは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休止 ・ 令和4年12月1日～22日まで、展示や事業内容、職員の対応等についてのアンケートを実施 ・ 運営懇談会として近隣小学校3校と意見交換を行った	

二 管理運営に係る評価(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	施設の設置目的に基づいた管理運営上の基本方針が確立しており、山田上ノ台遺跡の保存・公開、縄文時代の復元林・復元住居の管理・公開等について、職員が十分理解している。また、調査・研究、展示、体験活動を主とする普及啓発事業を通して、本市の歴史文化の保護・向上に資するといった目的を達成している。	27/27
II 施設の運営管理体制	職員の勤務実績・配置状況は適切であり、事業計画書に基づいて開館し、指定管理料も適正に執行されている。個人情報の保護や事故防止対策、事故・災害発生時の対応体制も確立され、事故等発生時には所管課へ迅速に報告書が提出されている。毎朝の職員朝礼が行われ、連絡事項だけでなく、過去の事故事例等を踏まえた改善策・再発防止策も共有されており、安全性の向上に努めている。	24/24
III 施設・設備の維持管理	建物や設備、備品は適切に管理され、利用者にとって快適かつ安全に過ごせる環境を保持し、紙・ファイルのリサイクルや節電・節水など、仙台市環境行動計画に則った取組みが行われている。野外展示の復元林・復元住居および植栽についても、適切な維持管理が行われている。	24/24
IV サービスの質の向上	職員の接客マナーや受付・案内は適切であり、標準的な業務はマニュアル化されている。職員の教育・研修も適宜行われ、利用者アンケートの結果等は定例のミーティング等を通じて共有し、改善を図っている。また、パンフレットやチラシのほか、ホームページやFacebook・YouTubeなどのウェブ上の広報媒体を通じて幅広い世代に情報を発信し、広報活動にも積極的に取り組んでいる。	28/28
V 施設固有の基準	協定書や仕様書に基づき適切に施設を管理するとともに、新型コロナウイルス感染症対策を施しつつ、事業計画書に従って適切に事業を実施している。イベントを通して近隣の学校や地域社会と良好な関係を構築し、発展的に事業を展開している。また、普及啓発事業について下記の取り組みを加点評価する。 自主財源事業「展示手法の開発と導入」では、石器製作実験セミナー(韓国)の細石刃編(韓国の講師1名を招聘、参加者19人)や国際ミニシンポジウム「3D技術と文化財、博物館」(韓国2名・日本2名の講師を招聘、参加者49人)などが計3回実施され、100人を超える多くの参加者から好評を得ている。各分野の第一線で活躍する国内外の研究者を招いて、これまでにない広い視野で事業が展開され、今後、仙台を起点に国際交流を推し進める上で重要な機会を創出しており、仕様書以上のめざましい取り組みを行ったと評価する。	15/14

三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台市市民文化事業団）による自己評価》
<p>令和4年度は新型コロナウイルス感染症による影響が前年度よりも少なくなったため、体験活動やイベントなどを最大限再開するとともに、ポストコロナに向けた体制づくりも考慮し運営を行った。</p> <p>管理運営にあたっては、利用者に安心・安全な環境を整備し、最大限のサービスを提供することができた。また、野外展示の復元住居の劣化が想定されたため、専門家を招聘し、今後の維持管理の方向性を検討するなどし、今後の本格的な改修も視野に入れつつ、改修・補強工事を行うことができた。</p> <p>展示事業に関しては、他県からの資料借用も再開するなどして、事業の活性化を図り、令和5年度以降の事業も見据えて行った。</p> <p>体験学習の中核を担う随時体験は、土日祝日や長期休暇などに申込制で実施した。感染状況を踏まえながら、実施回数やメニューなどは少しずつ増やした。申込制やメニューを限定して実施することで、職員の来館者対応にゆとりをもって対応できたことで、他のイベントの企画・準備などをじっくりと行うことができ、一つ一つの体験やイベントの質および満足度の向上につながるものと考えている。</p> <p>学校利用では、利用学習事業に21校が参加した。前年度から参加校が微増しているものの、コロナ禍以前の参加状況には戻っていないため、今後はより一層の周知・連携を図る必要がある。</p> <p>地域協働事業としては、近隣小学校や児童館などとの連携も再開でき、コロナ禍にあっても小まめな連絡を継続してきた成果の一つと考えられる。</p> <p>また、館内だけでなくアウトリーチ事業にも積極的に取り組んでいる。出前講座のチラシを作成し、これまでに利用のなかった団体や施設の利用も増えており、今後も継続して実施していく。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>施設の管理運営体制については、協定書や仕様書等に基づき適切に業務が行われている。施設の維持管理については、縄文時代の復元林や堅穴住居の日常管理が行われ、異常や事故が発生した際にも適切に対応している。体験学習を主とする施設のため、新型コロナウイルス感染症対策に伴い活動内容が制限された部分があったものの、前年度まで減少傾向にあった利用者数は持ち直してきている。コロナ禍を意識した運用マニュアルをもとに安心・安全な運営が心掛けられ、講座等のオンライン配信も的確に用いられている。特に、最先端技術を用いた新たな展示手法の導入やその研究報告は、優れた取り組みとして評価できる。</p> <p>普及啓発事業については、昨年度より多くの小中学校の利用学習に対応したり、「縄文まつり」で近隣校・市民サークルと一緒に演奏会を実施するなど、感染症対策を取りながら学習機会の提供や地域協働の取り組みに努めている。とりわけ国際交流を強く意識したセミナー・シンポジウムの開催は高く評価される。また、Facebook・YouTube等の広報ツールが積極的に活用され、博物館情報を幅広く発信している。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項
<p>土器・土偶といった資料の3次元モデル制作も継続して実施し、その動画をコーナー展で展示するなど、利用者の理解を助ける取り組みを行い、好評を得た。また、ここで制作した土偶や岩偶のモデルは、館で刊行している研究報告の論考中でも活用し、新たな視点での研究方法を提示することができた。</p>

© 評価担当課(施設所管課): 教育局生涯学習部文化財課